



報道機関 各位

記者発表資料

令和4年7月27日(水)

問い合わせ先：教育研究所

所長：深津

担当：大澤 平野

電話：866-4391

「令和4年度全国学力・学習状況調査」 さいたま市の結果概要を公表します

令和4年4月に実施しました「令和4年度全国学力・学習状況調査」のさいたま市の結果概要をお知らせします。

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2 調査の概要

実施日	令和4年4月19日(火)												
集計対象 学校数・ 児童生徒数	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">小学校</td> <td style="width: 20%;">104校</td> <td style="width: 20%;">第6学年</td> <td style="width: 40%;">10,922人</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>58校</td> <td>第3学年</td> <td>9,580人</td> </tr> <tr> <td>中等教育学校</td> <td>1校</td> <td>前期課程第3学年</td> <td>155人</td> </tr> </table> <p>※特別支援学校小学部及び中学部においては参加者はなし</p>	小学校	104校	第6学年	10,922人	中学校	58校	第3学年	9,580人	中等教育学校	1校	前期課程第3学年	155人
小学校	104校	第6学年	10,922人										
中学校	58校	第3学年	9,580人										
中等教育学校	1校	前期課程第3学年	155人										
内 容	<p>(1) 教科に関する調査</p> <p>小学校調査…国語、算数、理科 中学校調査…国語、数学、理科</p> <p>※下記①と②を一体的に問う問題が出題されている。</p> <p>①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等</p> <p>②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等</p> <p>(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査</p> <p>(児童生徒に対する調査)</p> <p>学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査</p> <p>(学校に対する調査)</p> <p>指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査</p>												

3 さいたま市の結果の概要

(1) 「教科に関する調査」

【資料1、2-1,2】

教科に関する調査の全てにおいて、全国の平均正答率を2.7~5.6ポイント上回っている。学力については、調査開始の平成19年度以来、おおむね良好な状況が続いていると捉えている。

【資料3】

ほぼ全ての内容・領域等で、全国の平均正答率を上回っている。特に、中学校数学の関数領域での差が最も大きく、全国の平均正答率を6.1ポイント上回っている。

(2) 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」

【資料4】

「2. 自分には、よいところがあると思う。」「4. 難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」の自尊意識に関する質問項目では、小・中学校ともに、肯定的な回答の割合が全国を上回っている。「2. 自分には、よいところがあると思う。」という質問項目では、肯定的な回答の割合が、全国を小学校で9.1、中学校で11.7ポイント上回り、本市の児童生徒の自己肯定感の高さがうかがえる。また、「6. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。」という質問項目では、全国を小学校で7.0、中学校で8.4ポイント上回り、「7. 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。」という質問項目では、全国を小学校で13.2、中学校で15.1ポイント上回っている。児童生徒が学校で認められる、相談できる環境が整っていることがうかがえる。

「19. 5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。」「20. 5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。」「21. 5年生までに〔1、2年生のときに〕受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていた。」の学習状況に関する質問項目では、肯定的な回答の割合が小・中学校ともに、全国を11ポイント以上上回っている。さらに、「22. 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」「23. 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。」の肯定的な回答の割合が小・中学校ともに、全国を9ポイント以上上回って9割程度となっており、主体的・対話的で深い学びの実現へ向け、授業改善が進んでいることがうかがえる。

「26. 5年生までに〔1、2年生の時に〕受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか。」という質問項目では、小・中学校ともに、週1回以上と回答した割合が全国と比べて高く、令和3年度の調査結果と比べても飛躍的に高まっている。本市において、積極的にICT機器を活用した授業が行われてきたことがうかがえる。